

ホタル幼虫放流会・見沼代用水東縁幹線水路 ～さらなるホタルの飛翔を願って～

午前中の雨は何とか上がったものの、どんよりとした雲が立ちこめる平成30年5月9日(水)、見沼代用水東縁幹線水路沿いにある七里総合公園のホタル水路において、今年で9回目となるホタルの幼虫放流会を行いました。

さいたま市見沼区辺り一帯は見沼たんぼと呼ばれていて、かつて無数のホタルが飛び交っていました。

しかし、昭和40年代以降周辺の都市化やそれを要因とする水質悪化等により、ホタルの数は年々減少してしまい、ホタルを見かけなくなりました。



NPO法人見沼ホタル保存会による学習会



見沼代用水の学習（水資源機構）

このため、利根導水総合事業所では平成21年以降見沼代用水路の水が、自然環境を保全する効果を発揮しているかどうか確認を行うため、きれいな水環境でしか生きられないホタルを使って水質の状況を把握する取組を関係機関（※1）の協力を得ながら実施しています。昨年は、ホタル水路で、過去最高の49匹のホタルの輝きを観測しました。

放流会当日は、地元東宮下小学校3年生の児童30名と引率の教頭先生や担任の先生に参加いただき、ホタルについての学習

などを行った後、「元気なホタルになってね。」と、幼虫の成長を願いながら5齢（※2）のヘイケボタルの幼虫約500匹を飼育小屋内の水路に放流しました。

成虫になるまでの間、放流会に参加していただいた皆様や地域の方々とともにあたたかく見守っていききたいと思います。

ホタルは、例年6月下旬頃から飛翔し始めます。7月中旬頃までホタルの輝きを飼育小屋の外からご覧いただけますので、ご興味のある方は是非訪れてください。



NPO法人見沼ホタル保存会提供の幼虫

◇ホタル水路の放流の様子◇



ヘイケボタルの幼虫やエサ（タニシ）に興味津々な児童。



児童一人一人に手渡されたヘイケボタルの幼虫に大きくなってね。と願いを込めて放流しました。

☆記念撮影☆



多くのホタルが飛翔することを期待しています。
(ホタル幼虫放流会は多くの方々に支えられています。)

- ※1 関係機関：NPO法人見沼ホタル保存会、見沼代用水土地改良区、七里地区自治会連合会、膝子自治会、さいたま市、(公財)さいたま市公園緑地協会
- ※2 一口メモ：5齢（終齢）とは、4回脱皮した幼虫のこと。（ヘイケボタル）日本にいるホタルの種類は48種類。そのうち、幼虫期に水中で過ごす水生ホタルの種類は3種類。水生ホタルは、ゲンジボタル、ヘイケボタル、沖縄のクメジマホタル。